

## 創造都市へ発進

創造都市という名は、聞き慣れないものかもしれません。簡単に言えば、「創造的な文化の営みと革新的な産業活動の連環により、まちを元気にしている都市」（※1）のことです。

私は、昨年4月の市長選挙に当たり、「創造性豊かな海園・田園・人間都市へ」というテーマをマニフェストに掲げました。いわば、高松ならではの創造都市の実現を公約の柱としました。そしてこの4月の組織改正で、新たに創造都市推進局を設置することとしています。組織を一つにまとめて、産業、観光と文化芸術やスポーツなどの施策を一体的に展開しやすくして、相乗効果を生んでいこうというものです。文化芸術より経済が優先だ、という根強い意見があります。しかし、私はどちらも大切であり、むしろ両者を関連づけて施策展開を図ることにより、より大きな効果と、まちづくりにとって好ましい結果がついてくると考えています。瀬戸内国際芸術祭や高松国際ピアノコンクール、アジア太平洋盆栽水石大会の成功はその実証例です。

丹下健三氏設計の香川県庁舎など優れた建築物を手がけ、デザイン知事とも呼ばれた金子正則氏は、今から約半世紀前の経済成長最優先の時代にあって、「政治も芸術も、究極の目的は同じ、いずれも人の心を豊かにするために捧げられるべきものだ」、「文化的な裏づけのない政治や経済は本物ではない」と言いきっています（※2）。その類まれなる洞察力、先見の明に敬意を表したいと思います。

文化芸術とともに、伝統的なものづくりも大切にしたいと思います。金沢市は、金沢箔、加賀友禅など、伝統工芸が息づく手仕事の町として、クラフト分野でユネスコの創造都市に登録されました。高松市でも、松盆栽、香川漆器、庵治石などの特産品とその産業は、創造都市実現のための重要な要素として、振興を図っていくべきだと考えています。

文化芸術振興条例（仮称）やものづくり基本条例（仮称）の検討もこれから本格化させます。高松らしい創造都市の実現に向けて、いよいよ発進です。

（※1）金沢市ホームページより

（※2）「高志低居」

（金子正則先生顕彰会 編）